

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：水産業費 目：水産業振興費

事業名 河川遡上アユ再生産促進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部里川・水産振興課漁業振興係

電話番号：058-272-1111(内4217)

E-mail：c11428@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,457千円 (前年度予算額： 1,277千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,277	0	0	0	0	0	0	0	1,277
要求額	1,457	0	0	0	0	0	0	0	1,457
決定額	1,457	0	0	0	0	0	0	0	1,457

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

水産資源保護法による指定を受けた長良川の保護水面区域において産卵場の造成を行うとともに、長良川においてアユ卵の人工ふ化放流を行い、伊勢湾流入河川のアユ資源を積極的に保護培養する。

また、世界農業遺産「清流長良川の鮎」の保全計画(アクションプラン)で計画されているアユの産卵場の整備及びアユ卵の人工ふ化放流を推進する事業である。

(2) 事業内容

○長良川におけるアユ産卵場造成

長良川の保護水面区域内において、河床を敷きならすことによってアユの産卵を促進する。

○長良川におけるアユ卵人工ふ化放流

河川で採捕したアユから人工採卵し、ふ化するまで管理する。

(3) 県負担・補助率の考え方

保護水面区域は水産資源保護法に基づき指定されており、区域内におけるアユ資源の維持・培養は県に義務付けられた事業である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	13	業務旅費
需用費	16	消耗品費、会議費
役務費	5	通信運搬費
委託料	1,423	産卵場造成、人工ふ化放流事業
合計	1,457	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

○ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和8年3月策定予定）

第4章 基本方針ごとの重点施策と主な取組

＜基本方針2＞ 潜在力をフル活用した生産強化

【重点施策】（1）農畜水産物の供給力強化

【重点施策】（2）魅力ある農畜水産物づくり

＜稼げる産地づくりの促進＞

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：県（水産資源保護法第十七条に基づき、保護水面の管理は当該保護水面を指定した都道府県又は農林水産大臣が行うこととされている。）

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

水産資源保護法による指定を受けた長良川の保護水面区域において産卵場の造成を行うとともに、長良川においてアユ卵の人工ふ化放流を行い、伊勢湾流入河川のアユ資源を積極的に保護培養する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R6年度	R8年度	R9年度	R10年度	達成率
	(R2～R6の5中3平均)	実績	目標	目標	目標(終期)	
①アユの漁獲量	253t	257t	300t	320t	350t	-

○指標を設定することができない場合の理由

アユ資源量は自然環境やその他様々な要因の影響を受けるために、具体的数値目標を設けることは難しい。しかし、毎年事業を行うことにより一定水準以上の資源確保を目標とする。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	(長良川) ○アユ産卵場造成 河床約1,600㎡をブルドーザーで耕うん ○アユ卵人工ふ化放流 採卵数 1,620万粒
	指標① 目標：350t 実績：181t 達成率：52%
令和5年度	(長良川) ○アユ産卵場造成 河床約1,600㎡をブルドーザーで耕うん ○アユ卵人工ふ化放流 採卵数 1,620万粒
	指標① 目標：350t 実績：242t 達成率：69%
令和6年度	(長良川) ○アユ産卵場造成 河床約1,600㎡をブルドーザーで耕うん ○アユ卵人工ふ化放流 採卵数 1,620万粒
	指標① 目標：350t 実績：257t 達成率：73%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 3	鮎漁業を支える資源として天然遡上鮎と放流鮎がある。当該事業は、天然遡上鮎の維持培養に多いに貢献しており、継続して取り組むべき事業である。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 3	木曾三川に毎年枯渇することなく稚魚が遡上してきていることから、事業の効果はあると判断できる。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価) 2	採卵及び受精にあたり水産研究所の協力のもと、技術的指導を行い、事業効果向上を図った。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ・追跡調査の実施が不可能に近い科学的根拠を示すのが難しい。 ・組合員の減少と高齢化による委託事業の継続問題

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>アユ漁業を復活させるためには、河川遡上アユ資源の増加が欠かせないため、アユ卵の人工ふ化放流やアユの産卵場造成に適した箇所を選定するなど、より効果的な増殖方法を確立していく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】